

3

「向き・方向」を「変えただけ」で、「ムダの繰り返し」を省く

「改善＝大変」という誤解を解くには、「○おしただけ」という「だけ改善事例」の大量紹介が効果的である。

たとえば、

- 右のものを、左にすただけ
- 横のものを、縦にすただけ
- あるいは、
- 形状を、ちょっと変えただけ
- 角度や方向を、変えただけ
- などの改善だ。

右ページの事例も、まさに

- ・向きを変えただけ
 - ・方向を変えただけ
- の改善に過ぎない。

だが、「改善のない職場」では、このような「変えただけ」という簡単な改善すらなされない。

そのため、計器の数値を読み取るために、

- ・イチイチ回り込む
- ・そのつど移動する
- ・ワザワザのぞき込む

などといった、「ムダな動き」や「余計な手間」を繰り返している。

しかも、そのような「ムダの繰り返し」が続いている。いつまでたっても、誰もそれを改善しようとしなない。

「なぜ、そんな動作を繰り返すのか」と尋ねると、

「昔から、そうしているから」

「昔から、そうしているから」

「以前から、そうだったから」

「そうするように、指示されたから」などの返答。

つまり、「ムダ」を「ムダ」と認識していない。だから、それを改善しようとか、ムダを省こうという気持ちもない。

まさに、ただ単に惰性で「体を動かしている」に過ぎない。そこには、「何のためにその動作をするのか」という「目的意識」もなければ、当然のことながら改善意欲もない。

だが、「改善の盛んな職場」では、

- ・イチイチ
- ・そのつど
- ・ワザワザ

などの「繰り返し」はムダと気づいた瞬間、そのムダを省くことに、頭が働き始める。


このような「繰り返しのムダ」を省くには、「あらかじめ・前もって」という**事前対応・先手対応**が有効である。

つまり、次もまた計器の数値を読み取らなければならないのだから、イチイチ、そのつど、ワザワザ移動しなくていいように、

- ・あらかじめ、こちらを向けておく
 - ・前もって、鏡を設置しておく
- など。

たったそれだけで、今後の「ムダの繰り返し」が省ける。その集積効果は、けっして、小さなものではない。

改善事例3 「向き・方向を変えただけ」の改善

改善前（問題点）	改善後（対策）
圧力計を見るため、「ワザワザ」回り込んでいた。	圧力計を90度回転させ、「その場で見える化」した。
	
効果 「ワザワザ回り込むムダ」が省けた。	



計器の「向き・方向」を「変えただけ」で、計器の数値を読み取るため、機械の横に「イチイチ・ワザワザ回り込む」という「ムダな動作&手間」を省くことができた！

いろいろな制約で「向き・方向」を「変えられない」場合は、たとえば鏡などの「補助具活用」で、ムダな動作からの「手抜き改善」も可能！



3

How改善

改善の3段階「ナイ化・ニク化・テモ化」

「どうすれば、改善を実施できるか」

「手っとり早く改善を実施するには？」

といった質問への回答も、また、1つだけ。

それは、「問題を裏返す」。「困っている」のが問題なら「困らナイ化」すれば、それで改善だ。

では、「困らナイ化する」にはどうすればいいのか。「困っている原因」を、裏返せばいい。たとえば、

- ・よく間違えるので、困っている
- ・遅れがちゆえに、困っている
- ・わかりにくいので、困っている
- ・やりにくいので、困っている

ならば、それぞれ

○間違えナイ化

○遅れナイ化

○わかりヤス化

○やりヤス化

するのが改善である。

では、「ナイ化」、あるいは「ヤス化」するにはどうすればいいか。それぞれの原因を裏返せばいい。

たとえば、「間違いの原因」は何だろうか。ともすれば、

- ・うっかりしていたから
 - ・不注意だったから
- などの声が出てくる。

だが、「うっかり」や「不注意」が原因ならば、その対策は、

- ・うっかりするな

・もっと注意せよ

ということになる。

だが、そのような精神論では、間違いは防止できない。なぜならそこに「やり方の変更」がなければ、また同じことが繰り返されるからだ。

「やり方を変える」には、「本当の原因＝具体的な原因」を突き止めなければならない。では、「間違いの本当の原因」は何だろうか。

それは、「似ている」からだ。似ていると、そこに「迷い」が発生する。そして、それが間違いにつながる。「似ている」のが「間違いの本当の原因」ならば、その対策は「似ナイ化」である。

では、「似ナイ化する」には、どうすればいいか。たとえば、

○色分け化

○目立つ化

○目印化

○強調化

○仕切り化

○仕分け化

など、いろいろな方法がある。

もちろん、それらの対策だけでは、完全に「間違えナイ化」を達成できるとは限らない。だが、少なくとも「間違いニク化」はできる。その分だけ「間違い」が減るので、それも「立派な改善」である。

How改善

①ナイ化＝阻止・防止

②ニク化＝難化・抑止

③テモ化＝影響緩和

●改善＝問題の裏返し

- ・間違える → 間違えナイ化
- ・間違える → 間違えニク化
- ・間違える → 間違えテモ化



「間違いっぱなし」は困る。しかし、たとえ間違ってもスグ気づく→対処できるのであれば、「被害・損害」を食い止め化できる。

●悪いことは「ナイ化・ニク化・テモ化」

良いことは「ヤス化＝易化」

- ・元に戻す → 戻しヤス化
- ・揃える → 揃えヤス化
- ・見つける → 見つけヤス化



1

改善の方程式

改善＝問題の裏返し
対策＝原因の裏返し

改善を実施するには、ただ単に「改善を呼びかけるだけ」「改善を働きかけるだけ」ではダメ。

「どうすれば改善できるか」という「具体的な方法」が必要だ。すると、「創造性開発法」や「発想法」などの話が出てくる。だが、「たかが改善＝小変」にそんな大袈裟なことは不要。

手っとり早い「改善の実施」の促進には、「最も簡単で、わかりやすい改善ノウハウ」が勧められる。それは、

- ① 改善の方程式
- ② 改善の定石
- ③ 改善の公式

の3点セットである。

数学用語を用いているが、中身はたいしたものではない。きわめて簡単なものだ。

スポーツの世界には、「勝利の方程式」という表現がある。それは

- ・「このパターン」なら勝てる
- ・「このような状況」なら勝てる

といった意味。

- それと同様、改善にも
 - ・「このように」やれば、改善できる
 - ・「このように」考えれば、改善できる
- という「改善の方程式」がある。

問題に直面した時、改善しない人は困りっぱなしのまま。愚痴ったり、ブツブツ文句を

言ったりするだけで何もしない。

だが、「改善の達人」は、そこで問題を裏返す。たとえば、「困っている」なら、即座に「困らナイ化」を考える。

そして、「困らナイ化するには、どうすればいいか」と、「には」という言葉で、物事を具体化する。

では、具体化するには、どうすればいいか。それは、「なぜ→どうしたら」を考えること。なぜなら、「対策」は「原因の裏返し」だから。

ゆえに、「原因に非対応の対策」は、「真の対策」ではない。それらは「ピント外れの対策」にすぎない。

たとえば、「困っている理由」が、「よく間違えること」ならば、その対策は「間違えナイ化」である。「間違えナイ化」するには、「間違える原因」を裏返せばいい。

「間違える原因」が「似ている」ならば、その対策は「似ナイ化」。では、「似ナイ化する」には、どうすればいいか。それは、「似ている要因」を変えること。

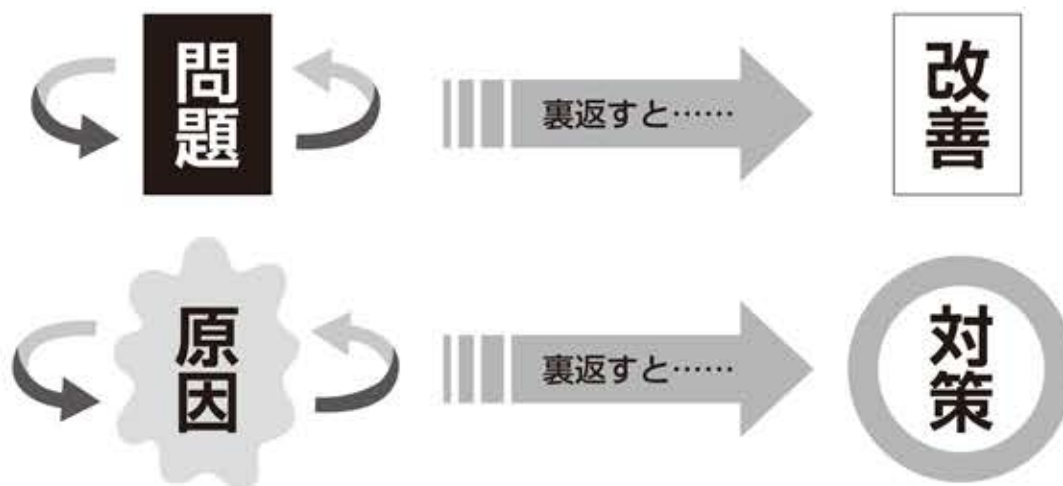
- たとえば、
- ◎ 「色が似ている」なら→「色を変える」
 - ◎ 「形が似ている」なら→「形を変える」
- など。

すると、「似ナイ化→間違えナイ化→困らナイ化」となり、問題解決。

これが、手っとり早い改善の「方程式」である。

改善の方程式

●改善とは――



●困る → 困らナイ化



- 困らナイ化するには……
- ・色が似ている → 色を変える
 - ・形が似ている → 形を変える
 - ・位置が似ている → 位置を変える
 - ・「サイズ」が似ている → 「サイズ」を変える
- あるいは、
- ・分離化
 - ・目印化
 - ・仕切り化
 - ・テープ化
 - ・隔離化
 - ・目立つ化
 - ・仕分け化
 - ・テブラ化
 - ・分別化
 - ・色分け化
 - ・区切り化
 - ・ラベル化
- など

